オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(83)(HP 収載)
－最新アナログシステムでの試聴(83)－

１．始めに

前報(82)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

２．モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。今回も Crystal E に 10000Ｆの電解コンデンサーを連結しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回も交響曲です。

CBS SONY 6OAC 112-4

モーツアルト　交響曲第 35 番ニ長調「ハフナー」
交響曲第 36 番ハ長調「リンツ」
交響曲第 38 番ニ長調「プラーハ」
交響曲第 39 番変ホ長調
交響曲第 40 番ト短調
交響曲第 41 番ハ長調「ジュピター」

ブルーノ・ワルター指揮コロンビア交響楽団

３．モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

CBS SONY 盤ということで、Columbia、逆相、第 4 時定数 Low で聴いていきます。

ブルーノ・ワルター指揮コロンビア交響楽団によるモーツァルトの後期交響曲 6 曲が収められています。クレジットによれば、第 35 番、第 38 番、第 40 番が 1959 年、第 36 番、第 39 番、第 41 番が 1960 年の録音ですが、収録年代を感じさせない

以外にフレッシュな音質です。
演奏は、前報(81)の第 40 番、第 41 番と同様、抑揚、緩急、強弱など、いかにもワルターらしい表現でワルターが育成したコロンビア交響楽団の成果ということになります。弱音の美しさから力強い強奏まで、ダイナミズムが魅力で、いずれにしても、ワルター節を堪能できるものでした。
なお、第 40 番、第 41 番は楽章の所要時間が、前報(81)の第 40 番、第 41 番と一致しますので、同じマスターからのカッティングと思われます。

４．まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E などの総合的な効果として、ワルターらしい、弱音の美しさから力強い強奏まで、ダイナミズムが味わえました。

以上